



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 オーシャンシステム
 コード番号 3096 URL <http://www.ocean-system.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役社長室長
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 樋口 勝人
 (氏名) 古川原 英彦

TEL 0256-33-3987

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	38,055	3.5	808	2.4	857	2.3	548	8.3
28年3月期第3四半期	36,776	7.1	789	10.6	838	11.7	506	8.5

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 652百万円 (14.0%) 28年3月期第3四半期 572百万円 (16.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	55.75	—
28年3月期第3四半期	51.49	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	15,208	6,241	41.0	634.03
28年3月期	14,518	5,711	39.3	580.22

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 6,241百万円 28年3月期 5,711百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	5.50	—	6.50	12.00
29年3月期	—	6.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,600	4.4	1,090	11.3	1,140	8.9	670	24.7	68.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期3Q	10,833,000 株	28年3月期	10,833,000 株
29年3月期3Q	989,121 株	28年3月期	989,121 株
29年3月期3Q	9,843,879 株	28年3月期3Q	9,843,895 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善により緩やかな景気回復基調ではあるものの、中国を始めとする新興国の成長率の減速に加え、英国のEU離脱や米国大統領選の影響など、世界経済の不確実性の高まりから、依然として先行き不透明な状況となっております。

食品業界におきましても、税金や社会保険料などの増加に伴う可処分所得の伸び悩みから節約志向は根強く、また、同業他社や他業態との競合により経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは「美味しさ」と「低価格」で高い競争力を実現するため、「安全・安心」な食材の提供はもとより、各営業拠点において販売強化とローコストオペレーションに取り組み、企業価値の向上に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は380億55百万円（前年同期比3.5%増）、営業利益は8億8百万円（前年同期比2.4%増）、経常利益は8億57百万円（前年同期比2.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億48百万円（前年同期比8.3%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しております。従来の「惣菜製造事業」は「弁当給食事業」に含めて記載しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(スーパーマーケット事業)

スーパーマーケット事業につきましては、鮮魚部門及び青果部門において産地直送商品の拡大を図り、お客様のニーズに応える店舗づくりに努めてまいりました。また、天候不順の影響による野菜相場の高騰はあったものの、デパート（日配）部門が比較的好調だったことと、前期4月にオープンしたチャレンジャー新発田店の集客が順調に伸びたことが売上高に大きく寄与し、既存店の売上高については前年同期に比べ、2.2%増加いたしました。

また、11月に旗艦店であるチャレンジャー燕三条店においてセミセルフレジを導入し、オペレーションの効率及びお客様の利便性の向上を図りました。これによりセミセルフレジの導入店舗は6店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は173億34百万円（前年同期比2.4%増）、セグメント利益は4億33百万円（前年同期比16.2%増）となりました。

(業務スーパー事業)

業務スーパー事業につきましては、当第3四半期連結会計期間に新規出店はなかったものの、前期に引き続き新店を中心とした飲食店舗への手配りチラシや新聞折込チラシ、及びメールマガジンによる特売品や試食会のイベント情報などを配信し、新規顧客の開拓と集客強化に努めてまいりました。また、業務スーパーのオリジナル商品を中心に、社内企画として陳列コンテストを実施しお客様のニーズに応える店舗づくりを目指した結果、既存店の売上高については前年同期に比べ、3.7%増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は109億19百万円（前年同期比7.1%増）、セグメント利益は2億74百万円（前年同期比13.8%増）となりました。

(弁当給食事業)

事業所向け宅配弁当につきましては、人気メニューを多く取り入れるなど月間メニュー表の改善を図るとともに、主力の弁当の他に、秋から冬場にかけて固形燃料を使用してお客様が温めて作る「ビビンバ丼」や「鍋焼きうどん」などお客様のニーズに沿った商品を提供したことで1日当たりの平均販売食数は増加いたしました。

また、当期より事業所向け宅配弁当の製造及び販売を開始した千葉工場につきましては、事業所向けの宅配弁当の食数を増やすとともに、惣菜の受注に関する絞り込みや、オペレーション等を見直すことにより生産性向上と人件費等の削減に努め収益体質の改善を図っております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は55億27百万円（前年同期比2.7%増）、セグメント利益は2億74百万円（前年同期比0.6%増）となりました。

(食材宅配事業)

食材宅配事業につきましては、「ヨシケイ」のフランチャイザーが40周年を迎え、新メニューの導入やテレビCMによるブランディングの強化に努めております。また、当社グループにおきましても新規のお客様向けに「お値打ち感」のあるメニューによる新規キャンペーンにも取り組んでまいりましたが、セット販売数は前年に及びませんでした。経費面につきましても、加工工程における作業内容を見直したことにより人件費及び製造経費は減少しましたが、夏から秋にかけての天候不順の影響による野菜類の価格高騰に加え、一部委託している配送業務費用が増加したことなどによりセグメント利益は前年を下回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は35億99百万円(前年同期比1.2%減)、セグメント利益は1億88百万円(前年同期比17.3%減)となりました。

(旅館、その他事業)

旅館「海風亭 寺泊 日本海」につきましては、旅行会社斡旋によるバスツアーの昼食利用客、及び折込チラシの配布やテレビコマーシャルの影響により宿泊客は前年に比べ増加いたしました。比較的安価な宿泊プランが多かったことから宿泊単価は前年金額を若干割り込みました。

定食屋「米どころん」につきましては、一部の店舗で店頭弁当販売を開始し、ワインや清酒などのアルコールメニューを充実させるなど、各店舗の立地環境や顧客層を考慮した販売商品の改良・改廃などに努めてまいりました。客数は増加したものの、人手不足による求人費用の増加と従業員定着が流動的であるため人件費の削減が課題となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は6億75百万円(前年同期比8.6%増)、セグメント損失は89百万円(前年同期はセグメント損失63百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ6億90百万円増加し、152億8百万円となりました。負債合計は、前連結会計年度末に比べ1億60百万円増加し、89億67百万円となりました。純資産合計は、前連結会計年度末に比べ5億29百万円増加し、62億41百万円となりました。この結果、自己資本比率は1.7ポイント上昇し、41.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期通期の連結業績予想につきましては、前回発表(平成28年5月13日)の業績予想に概ね沿う形で推移しており、今後も業績に大きな影響を与える可能性のある要因がないと考えられるため、変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,371,246	1,708,717
売掛金	993,862	1,128,009
商品	1,313,769	1,494,432
原材料及び貯蔵品	114,483	143,246
その他	501,928	592,659
貸倒引当金	△3,460	△3,307
流動資産合計	4,291,829	5,063,757
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,190,872	3,997,845
土地	3,007,391	3,013,738
その他（純額）	628,237	643,787
有形固定資産合計	7,826,501	7,655,371
無形固定資産		
のれん	4,950	6,316
その他	238,139	235,904
無形固定資産合計	243,089	242,221
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	98,427	99,628
その他	2,073,170	2,161,706
貸倒引当金	△14,961	△13,965
投資その他の資産合計	2,156,636	2,247,370
固定資産合計	10,226,227	10,144,962
資産合計	14,518,057	15,208,720
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,729,562	3,542,129
短期借入金	722,648	602,540
未払法人税等	225,364	127,460
賞与引当金	213,562	91,779
その他	1,449,523	1,580,431
流動負債合計	5,340,661	5,944,341
固定負債		
社債	800,000	800,000
長期借入金	1,016,901	564,996
リース債務	231,227	206,444
退職給付に係る負債	15,946	16,449
役員退職慰労引当金	395,974	431,700
資産除去債務	525,343	540,382
その他	480,394	463,061
固定負債合計	3,465,786	3,023,034
負債合計	8,806,448	8,967,375

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	801,710	801,710
資本剰余金	366,781	366,781
利益剰余金	5,264,387	5,690,108
自己株式	△751,653	△751,653
株主資本合計	5,681,226	6,106,946
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,373	130,082
退職給付に係る調整累計額	5,009	4,315
その他の包括利益累計額合計	30,383	134,398
純資産合計	5,711,609	6,241,345
負債純資産合計	14,518,057	15,208,720

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	36,776,690	38,055,917
売上原価	27,641,375	28,575,791
売上総利益	9,135,314	9,480,125
販売費及び一般管理費	8,345,694	8,671,262
営業利益	789,620	808,863
営業外収益		
受取利息	181	32
受取配当金	8,786	9,017
その他	65,296	63,973
営業外収益合計	74,264	73,022
営業外費用		
支払利息	22,469	16,409
その他	3,317	7,758
営業外費用合計	25,786	24,167
経常利益	838,098	857,718
特別利益		
受取保険金	21,716	17,100
特別利益合計	21,716	17,100
特別損失		
固定資産売却損	637	—
減損損失	13,257	1,213
災害による損失	15,000	15,604
その他	9,983	1,644
特別損失合計	38,878	18,462
税金等調整前四半期純利益	820,936	856,356
法人税、住民税及び事業税	224,286	272,024
法人税等調整額	89,810	35,563
法人税等合計	314,097	307,587
四半期純利益	506,839	548,768
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	506,839	548,768

（四半期連結包括利益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）
四半期純利益	506,839	548,768
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	68,596	104,708
退職給付に係る調整額	△2,846	△693
その他の包括利益合計	65,750	104,015
四半期包括利益	572,589	652,784
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	572,589	652,784
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	16,931,863	10,198,937	5,382,265	3,641,656	621,967	36,776,690	—	36,776,690
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,996	77	113,712	11,328	2,219	129,334	△129,334	—
計	16,933,860	10,199,015	5,495,977	3,652,985	624,186	36,906,024	△129,334	36,776,690
セグメント利益 又は損失(△)	372,644	241,013	273,310	228,265	△63,710	1,051,523	△261,903	789,620

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△261,903千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△270,225千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	17,334,254	10,919,675	5,527,386	3,599,224	675,376	38,055,917	—	38,055,917
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2,181	90	115,028	11,580	3,598	132,479	△132,479	—
計	17,336,435	10,919,766	5,642,415	3,610,805	678,975	38,188,397	△132,479	38,055,917
セグメント利益 又は損失（△）	433,189	274,173	274,968	188,769	△89,737	1,081,364	△272,500	808,863

(注) 1 セグメント利益又は損失（△）の調整額△272,500千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△270,229千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

（セグメント区分の変更）

従来、当社グループの報告セグメントは、「スーパーマーケット事業」、「業務スーパー事業」、「弁当給食事業」、「食材宅配事業」、「惣菜製造事業」及び「旅館、その他事業」の6事業としておりましたが、業績管理区の見直しに伴い、第1四半期連結会計期間から、「惣菜製造事業」を「弁当給食事業」に含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。